

禁止事項の期間について

項目	対象	米国	オーストラリア	国際骨髄腫財団パンフレット (厚労省安全対策課編集協力)	ガイドライン (日本臨床血液学会)	TERMS (藤本製薬)
避妊なし の 性交渉	妊娠する可能性のある女性患者	服薬4週間前から 服薬中止4週後まで禁止	服薬4週間前から 服薬中止4週後まで禁止	服薬4週間前から 服薬中止4週後まで禁止	服薬4週間前から 服薬中止4週後まで禁止	服薬4週間前から 服薬中止8週後まで禁止
	男性患者 (配偶者または パートナーが 妊娠可能)	服薬中および 服薬中止4週後まで禁止	服薬中および 服薬中止4週後まで禁止	服薬中および 服薬中止4週後まで禁止		服薬中および 服薬中止8週後まで禁止
献血	女性患者	服薬中禁止	服薬中および 服薬中止8週後まで禁止	服薬中および 服薬中止4週後まで禁止	生涯にわたって禁止	期間にかかわらず禁止
	男性患者	服薬中および 服薬中止4週後まで禁止				
授乳	女性患者	服薬中禁止	服薬中および 服薬中止8週後まで禁止	記載なし (服薬禁止のみ)	記載なし	服薬中および 服薬中止8週後まで禁止
精子提供	男性患者	服薬中および 服薬中止4週後まで禁止	服薬中および 服薬中止8週後まで禁止	服薬中および 服薬中止4週後まで禁止	記載なし	服薬中および 服薬中止8週後まで禁止

〈照会〉

4.FAXの回数について

FAXの回数について5回を3回にできないか検討していただきたい。

〈回答〉

TERMSでは、医師と患者、薬剤師と患者がそれぞれに遵守状況等確認票で相互確認し、その結果をTERMS管理センターにFAXし、TERMS管理センターの再確認をもって処方あるいは調剤を許可することとしている。また、医師と患者が相互確認した遵守状況等確認票A票（以下、A票という）または、薬剤師と患者が相互確認した遵守状況等確認票B票（以下、B票という）にそれぞれエラーや疑問点があった場合、TERMS管理センターは医師・薬剤師それぞれに各ステップで照会・確認の上、エラーや疑問点を解消している。

2009年2月6日から本年4月末日までの集計によると、A票では確認事項・注意事項のチェックなしやチェック間違い、及び記入もれや記入間違い等のエラーが15.4%あった。そのうち、未服用薬数量・処方数量の記入もれ・記入間違いは3.9%（A票のエラー総数の25.6%）あり、もしこれらA票のエラーが修正されないまま薬剤師に届けば、かなりの疑義照会が発生することになる。また患者が医師にでたらめを伝えるようなケースも稀にみられ、場合によっては患者がもう一度医師と相互確認のやり直しをせざるを得ないことも生じている。TERMSでは、ケアレスミスを含むこれらA票のエラーをFAXのやりとりで解消することで薬剤師の負担を軽減している。

更に、A票のやりとりでエラーを解消した後のB票においてもA票と同様のエラーが8.0%あった。特に、B票では調剤上最も重要な新規必要数量・未服用薬数量においてA票との不一致が1.3%（B票のエラー総数の17.0%）あり、TERMS管理センターから薬剤師に照会・確認しなければ、エラーのまま調剤されている可能性がある。TERMSではこのB票のFAXのやりとりも極めて重要と考える。院内において、医師と薬剤師が同一現場にいないこと、役割を分担していることを考えると、その都度医師・薬剤師それぞれに照会・確認することが安全管理上効果的であると考え。上述のエラー発生状況を考えると、医師とTERMS管理センター及び薬剤師とTERMS管理センターとのFAXのやりとりは必須と考える。

また、患者からTERMS管理センターにFAXされる診察前調査票に関しては、確認内容はA票及びB票で医師・薬剤師と患者で相互確認されており、自由記入欄は記入率が4.4%であった。そのうちTERMS上重大な事故につながる可能性のある内容の記載は2件（カプセルシートから取り出して保管）あったが、いずれもA票またはB票により確認できた事例であった。

よって、A票及びB票のFAXのやりとりは現行のままとするが、診察前調査票は省略して差し支えないと考え、FAX回数を4回に変更する。